



国際交流基金関西センター研修生との交流授業

～ボランティアとして参加した 西田 美耶さん (文学部) の感想～



わずか4時間の日本語を学ぶ海外学生との交流はあっという間で、それでも新しい発見を与えてくれました。

まず一つは私にとって、今回来日した学生があまり馴染みのない東欧・東南アジアの出身だったということです。関西の留学生にもあまりこの地域からの学生はいません。だからこそヨーロッパのどの辺り？首都は？という国紹介から、夢中になって話ししました。クリスマス休暇直前ということでも、どんな風にクリスマスを食べるのかの話題で盛り上がりました。しかし、同時にイスラム教の国ではクリスマスがないということに、クリスマスはワールドワイドイベントではないと気付きました。二つ目は普通このように異なる国の人が集まればきっと英語を話すでしょう。しかし今回は日本語が共通語でした。母語を理解できるのは同じ国から来た2、3人だけです。最後に時計台をバックに写真を取ると、いつか留学へ留学生として来たい、そのためにもっと日本語を勉強すると次の目標を決めたようでした。とても刺激を受けました。

私は将来、海外の大学・教育機関に携わるような仕事に就くことが夢です。国際基金が海外の大学と提携しこのようなプログラムを提供していることを知ることができたのです、よかったです。

日本語教育センター通信

第9号

交換学生対象

「現代日本文化クラス」 京都フィールドトリップ

シャビトウ オロルルシア エメリンさん
(フランス：リール第1大学) の感想

京都でお菓子を作りました。日本のお菓子は和菓子という名前です。京都の和菓子はとても有名で魅力的でした。先生の和菓子はきれいでし、とても上手でした！作り方は難しかったです。そして、私は本当に下手です。私の和菓子はきれいな色ではありません。

私の和菓子はきれいな色ではないから、イアンさんはいつも笑いました。た、くさん笑って、楽しかったです。和菓子を作りました。きれいな色、ないお菓子を3つ作りました。季節を感じるのは大切です。3回楽しみます。目と耳と口で楽しみます。私は料理人の和菓子で季節を見ました。でも、私の和菓子の中で何も見ませんでした。すべて色は混ざりました。

私は多くの新しいことを学びまし



＜様々な国からの研修生たちとの交流を楽しんだ西田 美耶さん(右から2番目)。時計台をバックに「ハイ、ポーズ！」＞

初等部の児童に折り紙を教えてもらいました！

初等部訪問

～交換学生授業～



＜ダムセン エリザベトさん(ドイツ：ルールボーフム大学)＞

日本・東アジア研究プログラムの日本語を履修している留学生が、11月と1月に初等部を訪問しました。初等部設立年度から行っている交流プログラムで、今年で5年目です。一緒に授業を受け、お弁当を食べ、昼休みはドッジボールをして遊んだり。英語や日本語、そしてジェスチャーを交えながら一生懸命交流することで、児童にも留学生にもよい経験となりました。さらに留学生にとっては、日本の小学校のシステムを学ぶ良い機会となったようで、児童が自分たちで校舎を掃除することにも驚いていました。

た。それは面白くて、楽しい時間でした。私はずっとこの日について覚えています。



＜和菓子作り体験に大満足のシャビトウ オロルルシア エメリンさん(フランス：リール第1大学)とエメリンさん(オーストラリア：クイーンズランド大学)＞

日本語教育センターからの お知らせ

「日本語教育関連科目新規開講！！」

2003年より毎年春・秋学期に実施していた本セミナーは今回をもって終了し、2013年春学期から、正規科目として「日本語教育基礎」「日本語教育基礎演習」がスタートします！留学先でTAをする機会があるかもしれません。留学前の準備として受講してみませんか？

詳しくは「全学科目履修ガイドブック」をご覧ください！



＜絵カードを使って、模擬授業を行う吉田 夏帆さん。ワクワクドキドキの教師体験です。＞

第19回日本語を教えたい人のための 入門セミナー(実践編)

受講者 吉田 夏帆さん (国際学部) の感想

このセミナーを受講して、日本語をより客観的に、また一つの言語として捉えることができました。グループでの共同作業の大変さも実感しましたが、同時に教案の作成や模擬授業など、貴重な経験もさせていただきました。また、実際に授業をやってみて、教えることの楽しさや、学習者と一緒に授業を作り上げていくワクワク・ドキドキ感にも気づきました。このセミナーを通して皆さんの発見がありました。楽しい学びの時間をありがとうございました。

発行人： 関西学院大学 日本語教育センター
発行日： 2013年2月15日

